

未来医療研究人材養成拠点形成事業
 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント
 [テーマA：メディカル・イノベーション推進人材の養成]

		整理番号	A - 6
申請担当大学名 (連携大学名)	大阪大学		
事業名	国際・未来医療のための人材養成拠点創生		
事業責任者	大学院医学系研究科長 金田 安史		
事業の概要			
<p>大阪大学は、橋渡し研究 (TR:トランスレーショナルリサーチ) 拠点として「未来医療開発部」を設置し、文科省橋渡し研究プログラムを実践しながら大学発創薬・医療機器や再生医療の実践とそれに不可欠な人材育成を行ってきた。さらに、日本発の医薬品・医療機器、医療システムの海外展開、世界の健康増進、日本医療の国際貢献のため「国際医療センター」を2013年設置し、メディカルイノベーションに取り組んできた。しかし、課題は、これまでに多数の専門家を育てながら TR・国際医療の大学教育プログラムが未整備のため医学部以外を含め次世代の専門家を輩出し得ていない。本課題解決のため、大学全学部・大学院を対象に国際・未来医療のための人材養成コースを設立する。医歯薬・理・工・基礎工の理系と、人間科学・外国語・経済・法・文の文系との文理融合の全学共通教育プログラムのメディカルイノベーター人材養成コースを設立する。</p>			
推進委員会からの主なコメント ：優れた点等、 ：改善を要する点等			
<p>当該分野における、文理融合型教育プログラムは、画期的であり、本格的に、効果的に取り組んでいただきたい。</p> <p>全学的、かつ産学官連携のもとに計画されているメディカルイノベーター人材養成コースは、本事業の目指すところであり、効果が期待できる。</p> <p>人材の育成を全学体制で行うといった点は特色がある。</p> <p>すでに海外からの人材を受け入れ、医療システムの海外展開、そして教育の国際化が実施されており、グローバル展開の実行力の点で優れている。</p> <p>国際力養成としては優れているが、ビジネス力・実用化力の養成のためのカリキュラムについては更なる充実を期待したい。連携機関等を積極的に活用することで、より効果的なプログラムに仕上げしてほしい。</p> <p>対象者それぞれの教育的背景を考えて、それを生かした「医療イノベーション人材」を育成する観点や工夫が必要ではないか。</p> <p>バックグラウンドの異なる対象に同じ科目を一律に修得させるのは難しい。授業の方法、履修指導での工夫を求めたい。</p> <p>少子化時代における子育て支援とキャリア教育・生涯教育への配慮があることが望ましい。</p>			
留意事項			
<p>修士課程大学院生の履修科目の一部が医学部生の履修科目と同一になっているが、学部・大学院それぞれのレベルに応じた教育内容・評価とすること。</p>			